

タイ プラナンへ おじゃま虫

(2007年2月の記録)

小倉十生子

日程：2007年2月15日(木)～2月20日(火)

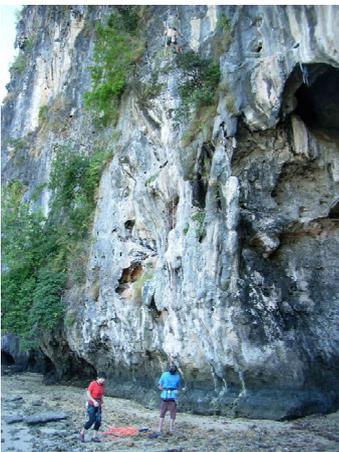
昨年の9月から、ちょっとしたきっかけで、インドア・クライミングを始めた。「週1回で3ヶ月やれば、誰でも上手くなるよ。」という一言と、一緒に始めたお仲間の手前、足抜けしがたく、気づいて見れば半年近くになった。とてもクライミングに向いているとは思えないし、いくら経っても上手く登れないし、「楽しい」とか「面白い」というのもまだあまり実感が無い。



「今度、タイに行くんだけど一緒にどう？」とUさんに誘われ、私には無理だと思うと答えると、「簡単なルートもあるし、海は綺麗だし。」という「海」に反応してしまった。そうか、クライミングばかりじゃなく、珊瑚礁でシュノーケリングが楽しめるんだ。年休も残っていることだし、ちょっとした休暇に出かけようと、いつものごとく軽い気持ちで参加を決めた。行く前に2、3回岩を触っておきましょうと、連れて行ってもらったフリークライミング。不動岩、志津川、千石岩と私にとってはホールドもスタンスも何も無いような所に何回か連れて行ってもらった。暖冬とはいえ、冬の岩場。登っていると手の感覚がなくなってくる。「なんでこんなしんどいことせなあかんの？」心の中でぼやきながら出発を迎えた。

バンコクで国内線に乗り換え、約1時間でクラビに到着した。空港にはクラビの町にある店「さくら」のご主人が出迎えに来てくれていた。ホテルや送迎の手配をここに頼んだそう。まず、「さくら」に行き、チェックインには時間があるので、町の見学を兼ねてモーニング・マーケットに出かけた。いろいろな種類のフルーツが目がいく。ライチのような味がするランブータンや皮が薄くて甘いオレンジを買った。

クラビからホテルのあるアオナンまでは30分位で着いた。道路を挟んでホテルの前がビーチだ。参加者は6名で、内2名Uさんのご主人と息子さんはダイビングをしたり、別行動の予定だ。クライミングをするのは、Uさん、Yさん、Hさん、私の4名だ。なかでもフリークライミング一筋のY氏は興奮気味で初日からやる気満々のようだ。



1、2、3の岩場

午後からさっそくクライミングに出かけた。ホテル前の浜からボートに乗ってライレイビーチに行く。浜に出ると早速、客引きのお兄さんに声をかけられ、4人だと1人100バーツ(約350円)と言われた。高いと思ったが他に客もいないので仕方がない。今は干潮で、遙か沖まで歩いて行かないとボートに乗れない。しかも水の中をジャバジャバ行かないと乗れない。その後、このボートの値段はいつも私たちを悩ませ、60から100バーツの間を上下した。着いたライレイビーチは砂浜が美しい。各ビーチは陸続きなのだが断崖絶壁続きで道が無く「陸の孤島」だ。交通手段はロングテール・ボートと呼ばれるエンジン付きのボートしかない。浜辺で寝そべる人達を横目で見ながら、1、2、3という岩場に直行した。ここはクライミング・スクールによく利用される場所

で、今も現地のプロガイドが大勢の客を相手に講習の真っ最中だ。石灰岩の岩壁の基部は海水による浸食のためか、えぐれている。私にはとても取り付けそうもない。「超入門コース」という誰も登っていない階段ルートを取りあえず登ったが、後は無理。

クライマーのほとんどはヨーロッパ系の人達のように、体は大きいし手を伸ばせば、私の倍くらいは高い所まで届きそうだ。クライミングの様子をぼーっと眺めていた。潮の引いた海岸に目を向けると無数の小さい穴があいている。じっと見ていると、カニが見えてきた。シオマネキだ。夢中になってシオマネキのダンスを見ていたら、「1本ぐらい登ったら？」と言われ、手も足もでない下部を押し上げ引っ張り上げてもらって、なんとか取り付いた。「ふーっ。たーいへん。」クライミングを終えてボートに乗り込む頃には夕陽が沈みかけていた。

2、3、4日目と私は4日間も連続してクライミングに出かけた。何カ所も岩場があり、それぞれ特徴があるようだが、印象に残っているところをあげると、まずトンサイビーチ。ここは、上級者用のルートが沢山あり、クライマーの憧れの場所らしい。私には日光浴の日陰としてしか利用価値がない、ルーフも好きな人にはたまらないルートなんだろう。ここでは、熱いフリークライマーのY氏がライオンキングという人気のコースにてこずり、午後になると直射日光があたり誰も登らないのに、諦めきれず、炎天下のもと、日焼けをものともせず何度もチャレンジした。私はこのときビレイヤーとしてつきあったが、Tシャツの下を汗が滝のように流れ、頭がぼーっとしてきた。「いい加減で諦めてくれないかなあ。」楽しかったのは、タイワンドウォールに行ったときで、1本登ると大きな穴があいていて、中は鍾乳洞となり裏側のビーチに抜けることができるのだ。4人で1つのヘッ電しかないので、暗闇の中を手探り足探りで進むのは結構、面白かった。洞窟を進むと前日行った岩場に抜けた。

毎日毎日クライミングに出かけたといっても、私が張り付けそうなところはあまりないので、クライミングに専念するみなさんを尻目に、ビーチでシュノーケリングを楽しんだ。残念ながら透明度が低く、あまり色々な種類の生物は見られなかったが、魚は結構いた。カラフルなチョウチョウウオや見たことがある魚もいた。小魚の大きな群れの中にすっぽり入り込んだり、ちいさなクラゲにやられたり、海は海で別の楽しさがある。トンサイビーチから隣のプラナンビーチまで泳いでいったのも面白かったし、海にぽっかり浮かんで、大きな岩壁から垂れ下がる鍾乳石を眺めるのも、いい気持ちだった。

5日目(帰る日) UさんとY氏はこの日もクライミングに出かけ、私はHさんにつきあってもらってカヌーの半日ツアーに出かけた。マングローブが茂る川をカヌーで遡り、洞窟巡りをした。カヌーに乗って洞窟の中から外のマングローブ林を眺めると、また別の世界のように感じた。瑠璃色のカワセミを2度も見かけたし、クロコダイルの姿も遠くに見えた。クライミングとはまた違った世界を楽しめた。



マングローブ林に行く

クラビ、日本人観光客はまだ少なく今回も数人しか出あわなかった。クライマー達は何日も安いバンガローに泊まり、近くの店で食事をし、クライミング三昧の日々を送っているようだ。プラナンでクライミングをするなんて、10年早い私でも、また来たくなるような、なかなか居心地の良い所だった。

クライマーのみなさん、是非一度行ってみてください。「クライマー天国」プラナンへ。